

L. L. ジェーンズ (1837~1909)

アメリカ合衆国オハイオ州ニューフィラデルフィア市生まれ、陸軍士官学校を卒業。南北戦争(1861~65)に北軍将校として参加し大尉に昇進しました。戦後メリーランド州で農業をしていましたが、熊本洋学校教師として招聘を受け、明治4年8月に熊本に着き9月から授業を開始し明治9年9月の廃校まで熊本の若者達の薫陶にあたりました。熊本を去ったあと大阪英語学校に赴き明治11年7月に帰国しました。その後明治26年に再来日し第三高等中学校や鹿児島高等学校等で教師を勤め明治32年に帰国しました。明治42年(1909年)3月27日に亡くなり、遺言により遺体は火葬され、サンフランシスコのライト山上に散骨されました。



ジェーンズの招聘に尽力したのは横井大平(小楠の甥)でした。熊本藩では洋学校を興して英才教育しようとしたが、教師の人選に困っていました。その頃体を悪くして帰国していた横井大平が自分の師であるフルベッキに依頼しジェーンズが来日したのです。

ジェーンズの功績(いろいろな分野で活躍した生徒達)

- 言論界の徳富蘇峰(大江義塾創設者)
 - 宗教界(日本キリスト教会)の海老名弾正、小崎弘道、宮川経輝
 - 教育界の横井時敬(東京農科大学初代学長)、中原淳蔵(九州帝国大学工科大学長)、加藤勇次郎(前橋英学校創立)、遠山参良(九州学院初代院長)
 - 同志社関係の小崎弘道、横井時雄、下村孝太郎、原田助
 - 実業界の石光真澄(エビスビール支配人)、市原盛宏(朝鮮銀行総裁)
- また自由・自主独立の気風や男女平等思想は、日本で初めての男女共学を実施し、日本でも早い時期の女子教育の学校、熊本女学校(明治20年)もこの流れです。

参 観 案 内

- 開館時間** 午前9時30分~午後4時30分
- 休館日** 月曜日(祝日の場合は翌日)
年末年始(12月29日~1月3日)
- 入館料** 高校生以上200円・小中学生100円
- 所在地** 〒862-0956熊本市中央区水前寺公園22-16
TEL・FAX (096) 382-6076
- 所 管** 熊本市中央区手取本町1-1
熊本市文化振興課
TEL (096) 328-2039
- 駐 車 場** 有り 約10台



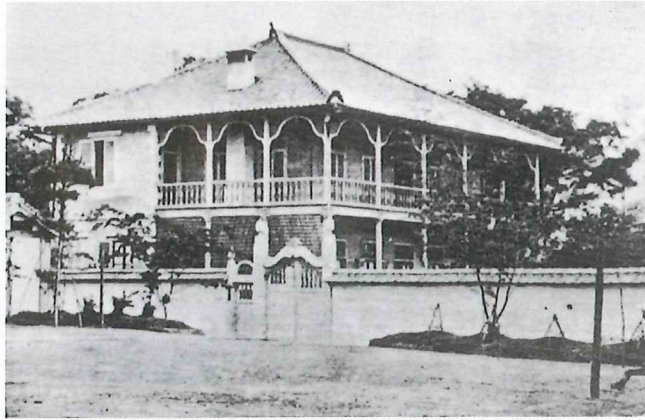
熊本洋学校教師館ジェーンズ邸

(県指定重要文化財 洋学校教師館)



夏目漱石第3の旧居
漱石は熊本滞在中6回転居しましたが、これは第3番目の旧居(大江の家)です。昭和47年に現在地に移されました。「我輩は猫である」のモデルと言われる、書生股野義郎が住んでいたのはこの家です。

熊本市文化振興課



明治4年 新築当時の洋学校教師館

洋学校教師館の歴史

(1) ジェーンズ居住時代——洋学校（ジェーンズ）記念館

熊本洋学校に外国人教師ジェーンズを迎えるため、古城（現在の県立第一高校）に明治4年初めから着工して9月に落成しました。建物の瓦は土山瓦で、壁は三和土で塗り、石材は 島崎石を使用していることから医学校の教師館と同様に建築材料の大半は熊本で調達されたものと思われます。

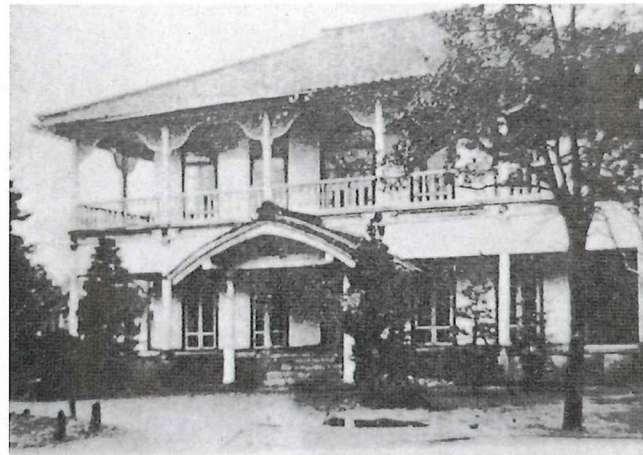
ジェーンズは明治4年8月15日熊本に着いて、ほとんど完成間近の教師館に入居しました。この館は建坪70坪、正面10間、奥行7間の総二階で正面と両翼の中途までベランダでめぐらし、窓には全て鎧戸が付き二階ベランダの出口には色ガラスが付いて熊本では最初の西洋建築でした。

ジェーンズが熊本を去ったのは、明治9年10月7日ですが同月24日には神風連の乱が起きました。もしもジェーンズの滞熊が少し延びていれば、彼の一家は当然被害を受けていたでしょう。

(2) 西南戦争と博愛社創設——日赤記念館

明治10年2月に西南戦争が始まり、熊本城は薩軍の包圍

攻撃を受けました。古城にも砲弾が落下し火の手があがりましたが、幸い洋学校教師館は戦火を免れました。4月14日に熊本城の包圍が解け、征討大総督有栖川宮熾仁親王も入城され、この教師館が御宿所に充てられました。ちょうどその頃元老院議員佐野常民らは、戦争による戦傷者の悲惨な状況を見て、敵味方の別なくこれを救済することを考え、征討大総督の許可があればその活動ができる見込みがついたので、有栖川宮にその許しを願い出ました。5月3日にその許可があり、早速博愛社を設立し、敵味方の別なく救護を行ないました。これが日本赤十字社の前身となり、教師館が発祥の地となりました。



新南千反畑時代の洋学校教師館（県物産館）

(3) 明治・大正期——県施設時代

明治19年から県庁は新南千反畑に新築を始め、翌20年1月から新庁舎で事務を開始しました。教師館もこの時庁舎北側に移転し、物産館として使用されました。明治36年4月に県立女学校が設立されましたが校舎ができなかったため、この教師館が明治38年3月まで仮校舎として使用され、その後は日露戦争のロシア人将校の捕虜宿舎となり、戦争が終わるとまた物産館として使用されていました。



水道町時代の洋学校教師館（日赤熊本支部）

(4) 水道町時代——日赤支部時代

昭和7年日本赤十字社は、教師館が日赤の発祥地であることから、県の譲渡を受け願正寺町の日赤熊本病院内に移し日赤記念館及び日赤熊本県支部事務所としました。昭和20年の戦災にも難を免れ、昭和42年まで日赤の県支部及び血液センターとして使用されました。

(5) 水前寺公園時代——文化財保存時代

ところが日赤県支部事務所として狭くなったため、新事務所が南側に建設されました。その時から記念館移転が問題となり、県・市・日赤で協議され昭和45年10月に現在地に移築復元されました。昭和45年11月熊本市有形文化財指定、46年5月には県指定となり現在にいたっています。



洋学校教師館室内